

『国立アイヌ民族博物館展示計画』（平成 28（2016）年 5 月、文化庁）より抜粋

（国立アイヌ民族博物館展示企画室長 田村将人）

〔前略〕

Ⅱ. 国立アイヌ民族博物館の展示について

1. 基本的な考え方

国内外の多様な人々に、アイヌの歴史や文化を正しく学び、正しく理解する機会を提供するために、アイヌの歴史・文化等を総合的・一体的に展示する。

- ・ともに考え、ともに育つ、未来へつながる展示交流の実現を目指す。
- ・歴史と現代の時間の流れを伝える展示を目指す。
- ・アイヌ文化の伝承者・実践者や道内外の博物館等と連携した展示体制を構築する。
- ・多様なニーズに対して訴求力のある展示を目指す。
- ・国際的な視点を持って世界に発信できる展示を目指す。

2. 対象とする地域・視点

アイヌの人々が居住してきた北海道，サハリン（樺太），千島，本州東北地方を中心に、アイヌ文化が周辺諸地域との関わりの中で醸成されてきたことに留意した展示を行う。

3. 対象とする時代等

旧石器時代から現代までを対象とし，周辺の人々との交流を含めた広がりの中で多面的に取り上げる。

〔中略〕

6. 展示資料・手法について

（1）展示資料について

- ・考古資料，歴史資料，絵画資料，民族資料，文書資料，現代の美術・工芸作品，及びそれらの材料・素材等を収集し，展示する。
- ・アイヌ文化等に関する写真，動画等の映像資料，音声資料，図書資料等を収集し，展示する。

〔中略〕

V. 基本展示のストーリーと中・小テーマ

〔中略〕

4. 私たちのしごと

<展示ストーリー>

生活の根幹である狩猟・漁撈・採集・農耕等の伝統的な生業活動を紹介し，続いて近代化の中で従事するようになっていった農業，漁業，林業，畜産業，観光業等のしごとについても広く紹介する。現代の展示では，アイヌの人々が，海外を含めた各地で様々な職業に就い

て活躍し、身近な隣人として暮らしていることを紹介する。

全体の展示を通して、伝統文化が変化しつつも現代にまで継承されていることを、観覧者へ同時代性を意識させつつ紹介する。

「伝統的」な生業活動に関する展示では、生業技術の紹介にとどまらず、それと連関する世界観や伝統的知識の精華を伝えるように工夫する。展示資料（民具等）は厳選し、その使用方法等は体験型の模型等も用いて丁寧に解説することで観覧者に「楽しさ」を感じさせ、興味関心を高める。

〔中略〕

5. 私たちの交流

＜展示ストーリー＞

アイヌ文化は、隣接する東北アジアの周辺諸民族（和人やニヴフ、イテリメン等）との交流（交易）、現代では世界各地の先住民族との交流を通して現在に継承されている。生活の中に流入した交易品等の資料を紹介し、先住民族同士の交流の足跡をたどり、アイヌ文化の未来を考える展示とする。

また、和人及び外国人等による踏査の記録（文書、図像）から、アイヌ文化がどのように表象されてきたのかを紹介するとともに、19世紀以降の博覧会、観光の場において、また伝統文化の保存・復興の取組から、自らの文化をどのように表象してきたのかについて取り上げる。

最後に、世界の先住民族の民族政策や文化政策（あるいは状況）等を紹介し、近年の先住民族同士の交流を通して、日本における多文化共生の在り方及び先住民族の位置づけを示す。

〔中略〕

6. 私たちの歴史

＜展示ストーリー＞

旧石器時代から現代までの時間軸、及び周辺の人々との交流を含めた空間の広がり重視し、重要なトピックを取り上げ、多面的な展示を目指す。その際、これまで考古学のタームに基づき通説的に用いられてきた9～13世紀における「アイヌ文化の成立」という表現は避け、通史的な継続が分かるような年代観とする。

具体的には、年表や地図を素材に時間軸と空間的ひろがりを概観する①「イントロダクション」に続き、②主に出土品の分析成果に基づいた展示ブロック（古代・中世）、③主に文献史学の成果に基づいた展示ブロック（古代・中世・近世）、④オーラル・ヒストリーの要素をも加味した近現代の展示ブロック、の3つの中テーマを設け、それぞれ分かりやすく重要なトピックを紹介することで、歴史的継続性と多様性を示す核とする。それに加え、⑤コラム的な展示を設け、アイヌ史の豊かさ・多彩さを示す。